

官僚主義との闘争には、

2-21と同一文

あなたはこう書いている。

「大衆の自主活動は、官僚主義的な中央管理機関と呼ばれる腫瘍を**根絶する**ときはじめて**可能**である」と。

私は現場にいたことはないけれども、それでもこの官僚主義とそれがきわめて有害なことを知っている。あなたの誤りは、これを「腫瘍」として、一気になくし、「根絶する」ことができると考えている点にある。

これはまちがいだ。ツアーリを追いはらい、地主を追いはらい、資本家を追いはらうことはできる。われわれはそれをやってのけた。しかし農民国で官僚主義を「追いはらう」ことはできない。「根絶する」ことはできない。ゆっくりしたねばり強い努力によってそれを**すくなく**することができるだけだ。

「官僚主義的腫瘍」を「取りのぞく」こと——これはあなたが他の個所で述べていることだが——これは問題提起そのものにおいて正しくない。これは問題を理解しないものだ。この種の腫瘍を「取りのぞく」ことはできない。それは**治療**することができるだけだ。外科手術はこのばあいばかりしているし、**不可能だ**。**ゆっくり治療**することだけだ。その他のことはすべていんちきか、おめでたい願望だ。

あなたはまったくにおめでたい。あけすけに言ってすまないが。だがあなた自身、自分は若いと書いているのだ。

あなたが二〜三回官僚主義との闘争をためしてみたが敗北を喫したということを理由にして、治癒を断念するのはおめでたいことだ。第一に、私はあなたのこの不首尾におわった試みにたいしては、第一に、二〜三回ではなく二〇〜三〇回もためしてみ、くりかえし、はじめからやりなおすことが必要だ、とこたえる。

第二に、あなたの闘争方法が正しく、巧妙であったことが、どこで証明されるのだろうか？ 官僚主義者は機敏な奴で、彼らのうちの数多くの汚らわしい奴らは大の狡猾漢こうかつかんである。彼らを素手でとらえることはできない。あなたは正しくたたかっただろうか？ 兵術のあらゆる原則にのっとり、「敵」を**包囲**しただろうか？ 私は知らない。

エンゲルスを引合いに出しているが、これは理由がない。だれか「知識人」が引証するようにあなたにほのめかしたのではないだろうか？ よく言っても、無用の引証である。教条主義の気味がある。絶望しているように見られる。だが絶望することは、われわれにとっては笑うべきことであるか、さもなければ恥ずべきことだ。

農民的でしかもひどく疲弊した国での官僚主義との闘争には、長い時間が必要だ。そしてはじめの不成功にくじけることなく、根気づよくこの闘争をおこなうことが必要である。

「中央管理機関」を「取りのぞく」？ つまらないことだ。あなたはその**かわり**になにを設置するのか？ それはご存じない。**取りのぞく**のではなく、清め、治療するのだ。十ぺんも百ぺんも治療し、清めるのだ。そしてくじけないことだ。

報告をされるなら（このことにはけっして反対しはしない）、どうかあなたあての私の手紙も読みあげていただきたい。

お元気で。「気をおとさ」ないようにお願いします。

レーニン

第35巻『エム・ソコロフへ』P540～541 1921年5月16日に執筆